

<今回>359回目 2024年11月4日(月)14時10分～17時 601会議室

読書は3冊目「盗まれた神話」 朝日文庫版 本文 謎に満ちた二書 より

<前回>358回目(24-10-21)出席者9名

資料1)第357回(24-10-21)のまとめ(清水)

2)2025年4月までの日程表(清水)

A 報告 大墨氏は東戸塚の古代史講座に加えて、八王子セミナー(倭国から日本国)の準備と独自の横浜野毛山講座の実施が軌道に乗ってきたので、大変忙しいようだ。古田日本古代史の広がりを期待したい。

B 資料2)2025年4月までの、この会の日程表。

C 読書 前はミネルヴァ版に追加された「はしがき」と目次の表題までを、熟読した。今回から著作三作目の「盗まれた神話」の本文第一章「謎にみちた2書」から皆で読書する。

1)聖典か虚妄の史書か「記紀」を取りあげる。戦前は聖典とされ、戦後は虚妄の史実として神話や説話を忘却の彼方に追いやった。(其の境目の時を古田武彦氏は17、8歳で体験した。広島原爆体験と共に)同一人物たちの豹変ぶりに、信じる者は自分しかないと思ったと書いている。

2)古田氏は30歳代ころには親鸞研究(世評高く)をし、古代史世界には偶然に導かれて、古代史学者の忠告にも関わらず、(この日本古代史の世界は学問から程遠いという。)邪馬壹国の入り口をくぐった。

3)原文を一字一句も妄りに改変せず、「三国志」全体の表記のルールに従って、三国志魏志倭人伝を読むと、従来の「邪馬台国」の改変を非とした博多湾岸の卑弥呼の「邪馬壹国」に導かれた。(『邪馬台国』はなかった)

4)同じ方法で、志賀嶋の金印や中国の代々の史書(宋書、隋書、旧唐書)の指し示す列島の王者を求めた。その結果紀元前2世紀から7世紀まで一貫して近畿の天皇家に先在した筑紫を中心とする九州王朝が存在することを知った。(失われた九州王朝)

5)これに対して、記紀神話の世界は学問上の論議だけでなく、様々の分野の激しい対決さえ、現実の世界に生じているのである。自分は好奇心にもえる少年のように無邪気に問い、率直に疑い、それを探求の出発点にした。

6)矛から生まれた国 国土創世神話 古事記には天の浮橋に立って、天の沼矛を賜い、タダヨエル国をかき混ぜて、引き揚げる時に、矛の先から滴り落ちる塩重なり積もりて島となり、これをヨノゴロ島という。そこに天下り天の御柱を立て八尋殿を建て、これを巡って、次々と大八島を生んでいった。

7)天の沼矛の威力から大八島の国が発生したという思想だ。これに対して弥生時代の2大青銅器文化圏があると考古学資料は示している。(この本は1994・1・1発行なので、出雲の荒神谷遺跡や淡路島の銅鐸、実用的な小さな銅鐸の九州地区からの発見が落ちている。)

8)矛の独占する国土創世神話、銅鐸の全く出現しない世の神話。神代紀「一書」の意味するもの、神武天皇以前は58個の一書からの引用がある。神武以降は(時に一日)ほとんど無い。日本書紀成立以前から、1世紀前後には文字資料による、伝承の記録化が始まっている。文字の伝来は、もっと遅いとみられていた。千文字など。伝承、説話の記録化が始まっている。(各系統でそれこそ多角的に始まっている)

第359回 11月18日 14時10分から17時まで 602 会議室

第360回 12月2日 14時10分から17時まで 603会議室